

国 語

注 意

1. 問題は全部で13ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その1)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
6. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が1のとき)

1	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6	<input type="radio"/> 7	<input type="radio"/> 8	<input type="radio"/> 9	<input type="radio"/> 0
---	----------------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり、折り曲げたりしないこと。

— 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

私たちに立ち現れる世界は、色や音、匂いなどに満ちあふれている。真夏の公園の木陰で涼んでいると、サルスベリの赤い花が見え、池を泳ぐ水鳥の鳴き声が聞こえ、バーベキューの肉の匂いが漂ってくる。しかし、私たちに立ち現れるのはこのような事物の事後的性質だけではない。それらに加えて、さまざまな価値的な性質¹も立ち現れる。サルスベリの花は赤く立ち現れるだけではなく、青い空に映えて美しく立ち現れる。水鳥はびっくりさせるものとして、バーベキューの肉は美味しそうなものとして立ち現れる。私たちに立ち現れる世界は事後的性質で満ちあふれているだけではなく、価値的性質でも満ちあふれている。

事物の価値的性質がこのように私たちに立ち現れるとき、私たちはどのようにしてその価値的性質を捉えているのだろうか。

色や音などの事後的性質については、私たちはそれらに特有の感覚器官をもっている。色は眼や網膜などから成る視覚器官によつて捉えられ、音は A 器官によつて、匂いは嗅覚器官によつて捉えられる。このようにそれぞれの感覚器官によつて事後的性質が捉えられることにより、事後的性質は私たちに立ち現れる。しかし、価値的性質については、それに特有の感覚器官が存在しない。サルスベリの花が美しく感じられるとき、その色や形は視覚器官によつて捉えられるが、美しさはそうではない。美しく感じるということは、たんに色や形が見えるということではなく、それ以上の何かを感じられるということであるが、その何かは視覚器官で捉えられるものではない。びっくりさせるという性質や美味しそうだという性質についても同様である。

価値的性質が感覚器官によつて捉えられるのではないとすれば、価値的性質が立ち現れるとき、私たちはその性質をどのようにして捉えているのだろうか。価値的性質は、それに特有の感覚器官がないとしても、「感じる」²という仕方では捉えられていることは間違いない。サルスベリの花は美しいと感じられ、水鳥はびっくりさせるものとして、バーベキューの肉は美味しそうに感じられる。私たちは価値的性質を感覚器官によらずに「感じる」という仕方では捉えているのである。

しかし、感覚器官によるのでなければ、私たちはいったいどのようにして価値的性質を「感じる」という仕方では捉えているので

あろうか。私たちには「感じる」という仕方では事物の性質を捉える二種類の能力³があるように思われる。感覚器官に基づく知覚の能力と、感覚器官によらない情動の能力である。知覚が事物の事象的性質を「感じる」という仕方では捉えるのにたいし、情動は事物の価値的性質を「感じる」という仕方では捉えるように思われる。歯を剥き出しにして迫ってくるイヌに恐怖を覚えることは、そのイヌを怖いと感じることにほかならない。つまりそれは、怖いという価値的性質（＝危険だという性質）を感じ取ることなのである。また、オリンピックでの日本選手の活躍に喜びを覚えることは、その活躍を喜ばしいと感じることにほかならない。つまりそれは、喜ばしいという価値的性質（＝大事なものが実現したという性質）を感じ取ることなのである。情動はこのように事物の価値的性質を「感じる」という仕方では捉える。しかし、バーベキューの肉を美味しそうに感じる場合はどうだろうか。美味しそうに感じることは、何らかの情動を抱くことであろうか。美味しそうに感じるとき、そこには魅惑される感じやカツボウ感のよ⁴うなものが生じていよう。しかし、このような魅惑感やカツボウ感は、B のような典型的な情動と比べれば、それほど自然に情動だとは言いがたい。

魅惑感やカツボウ感などを情動に含めるためには、情動の範囲をかなり広く理解することが必要である。しかし、快感や苦痛、嫌悪感などを情動に含める場合のように、情動を広く理解することもしばしば行われる。ここでは、情動の範囲⁵を広げて、事物の価値的性質を「感じる」という仕方では捉える心の状態をすべて「情動」とよぶことにしたい。このように広く理解すれば、価値的性質はすべて情動によって「感じる」という仕方では捉えられることになる。

事物の価値的性質が私たちに立ち現れるとき、その性質はつねに情動によって感じ取られている。しかし、そうだとしても、情動はどのようにして事物の価値的性質を感じ取るのだろうか。情動は知覚と違って、それ特有の感覚器官をもたない。感覚器官によらずに、何かを感じるということはいかにして可能なのだろうか。この問いにはまだ答えが与えられていない。以下では、情動における身体的反応と脳によるその感受に着目しながら、この問題を考察していこう。

情動には特有の感覚器官がない。迫ってくるイヌを見ると恐怖が湧くが、イヌの唸り声を聞いただけでも恐怖が湧く。また、現実の場面を知覚しなくても、恐怖が湧くことがある。主人公がクマに襲われる映画のシーンを見ると、ぞっとするし、そのよ

うな状況を描いた小説の一節を読むだけでも、ぞっとする。さらに、何も知覚せずに、ただ状況を想像するだけでも、ぞっとする。バンジージャンプは、それをするのを思い浮かべただけでも、身震いがする。

情動はこのようにさまざまな知覚や想像のもとで生じる。このことから、情動はじつは事物の価値的性質を感じ、取るのではなく、それを判断するのだという考えが浮かぶかもしれない。歯を剥き出しにして迫ってくるイヌを怖いと判断するという⁶ことであれば、じつさいにそのイヌを見るときだけでなく、映画で見たり、小説で読んだり、頭で想像したりするときにも、そのような判断が生じることに何の不思議もないだろう。判断はそれに特有の感覚器官がなくても生じる。

しかし、情動のじつさいの体験からすると、情動は明らかに事物の価値的性質を感じるものであるように思われる。イヌに恐怖を抱くとき、イヌをまさに怖いもの（＝危険なもの）と感じる。それはたんなる知的な判断ではなく、生々しい感じである。しかし、これにたいしては、情動を価値判断とみなす立場からも、それなりの応答が可能であろう。すなわち、情動はふつう身体的な反応を伴い、その反応は脳で感受される。歯を剥き出しにしてイヌに迫ってこられると、恐怖を覚えると同時に、身体が震え、その震えが脳で感じ取られる。情動はこのような身体的反応の感じを伴うため、価値的性質を感じ取るものであるように思われるのだ。しかしじつさいには、それはたんに価値的性質の判断にすぎず、その判断にただ身体的反応の感じが伴っているにすぎない。情動の本質は判断であり、感じはその判断に伴伴するものにすぎないのである。

情動において事物の価値的性質が感じられるという点については、このように情動を価値判断とする見方においても、それなりの応答が可能である。しかし、価値判断説には、明らかな難点がある。私たちは歯を剥き出しにしたイヌに恐怖を覚えつつも、そのイヌが檻のなかに入っているのです、本当は怖くない（＝危険でない）と判断することがある。つまり、イヌに恐怖を抱きつつも、イヌを怖くないと判断するのである。イヌへの恐怖が、イヌは怖いという判断なら、ここでは矛盾した判断が生じていることになる。すなわち、イヌを怖いと判断しつつ、同時に怖くないと判断していることになる。しかし、こんな明々白々の矛盾が生じているとは考えがたい。いくらなんでも私たちはそこまで愚かではない。そうだとすれば、イヌへの恐怖はやはり判断ではなく、感じであろう。イヌに恐怖を抱くとき、私たちはイヌをまさに怖いと感じているのである。⁷

（信原幸弘『情動の哲学入門』による）

問一 傍線部1「価値的な性質」とあるが、この文章中で「価値的な性質」あるいは「価値的性質」とはどのような性質を指している

か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 1

- ① 喜びや悲しみといった感情と直結するもの
- ② 私たちの目の前に立ち現れてくるもの
- ③ 感じることができているが感覚で捉えることができないもの
- ④ 事実的性質と正反対の性質であるもの
- ⑤ 色や形以上の何かを感じられるもの

問二 空欄Aに入る適当な語を漢字二字で書け。問二は、解答用紙(その2)を使用。

問三 傍線部2「感じる」のように、文章中では「感じる」の語が特に括弧でくくられていることがある。どうしてそうになっている

のか、その理由として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 2

- ① 情動でも知覚でも捉えることのできない感覚という意味を示すため
- ② 感覚器官でまったく捉えられない性質を表すために用いているため
- ③ たんに色や形が見えるということではなく、それ以上の何かを感じられることを示すため
- ④ あるものの性質を感じ取ることを強調する目的で特別の表記として用いているため
- ⑤ 事実的性質と価値的性質に共通の性質を示すというやや特殊な意味に用いているため

問四 傍線部3「二種類の能力」とは具体的にどのようなものか。その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマーク

せよ。解答欄番号は 3

- ① 「感じる」という力によるものと、そうでないものの二種類
- ② 美味しそうなものと、美しいものとの性質を捉える能力
- ③ 知覚と情動によるそれぞれ異なった性質を捉える能力
- ④ 感覚器官の異なった使い方によって性質を捉える二種類
- ⑤ オリンピックでの日本選手の活躍に喜びを覚える能力

問五 傍線部4「カツボウ」とあるが、これを漢字にせよ。問五は、解答用紙(その2)を使用

問六 傍線部5「情動の範囲を広げて」とあるが、どのように広げたのか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせ

よ。解答欄番号は 4

- ① 価値的判断によるものに広げる
- ② 快感や苦痛などにまで広げる
- ③ 単純な感情や好悪以外に広げる
- ④ 二種類の能力にまで広げる
- ⑤ 心の状態に関係ないものにまで広げる

問七 傍線部6「それを判断するのだ」とあるが、その理由として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **5**

- ① 感覚なしに生じるものであるので、知的な判断と考えるほうが妥当であるため
- ② 事物自体を直接に判断のための重要な対象とするものであるから
- ③ 頭の中だけで演繹される事象であるため、知的な判断と考えられやすいから
- ④ 情動から生じるものであることから、価値的性質はわかりにくいから
- ⑤ 判断材料がないところで、判断を下さざるを得ないことを示すため

問八 傍線部7「イヌをまさに怖いと感じているのである」とあるが、これはどうしてそういう結論になるのか。そのわけとして最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **6**

- ① 情動の本質は常に判断に基づくものであるから
- ② 価値判断説では説明がつかない現象があるため
- ③ 判断は特有の感覚器官がなくても生じるから
- ④ 情動は身体的な反応の感じをともなうため
- ⑤ 矛盾した判断が生じる場合が多いから

問九 この文章中で用いられている「判断」の語は、どういう意味に対して反対の意味で使われているか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **7**

- ① 反応
- ② 恐怖
- ③ 情動
- ④ 知覚
- ⑤ 感じ

問十 この文章の後に、その論旨を受けて続けるとしたら、どのような内容の文章が適切か。最適なものをお次の①～⑤から選
び、記号をマークせよ。解答欄番号は 8

- ① 日常の問題に潜む学問的な追究を別の面から進める
- ② イヌの性質について例外的な場合を述べていく
- ③ 哲学的な面から、判断のあり方についての論議を深めていく
- ④ 身体性の問題について新たな展開を導く
- ⑤ 情動の持っている多様な性質をさらに解説する

問十一 この文章の文体的特質として記述できることは何か。最適なものをお次の①～⑤から選
び、記号をマークせよ。解答欄番
号は 9

- ① 明確な論理に従って組み立てられた文体
- ② 情緒を重んじる感情的な含みのある文体
- ③ 思いつきを次々と投げ出すテンポの速い文体
- ④ 詩の一節を思わせるリズムのある文体
- ⑤ 博物的な知識による図鑑のような文体

問十二 この文章の論旨から、正しいものはどれか。最適なものをつぎの①～⑤から選び記号をマークせよ。解答欄番号は 10

- ① 情動の能力は感覚器官には基づかない
- ② 価値的性質は情動が捉えることができる
- ③ 事実的性質は身体的反応を伴なう
- ④ 価値的性質というものは本質的に存在しえない
- ⑤ 知的判断と、情動とは裏表の関係にある

問十三 文章中で、イヌが例として多く取りあげられているが、それはどういう理由からか。最適なものをつぎの①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 11

- ① 価値的性質を各種備えているから
- ② 人間ではないものも同じような性質を備えていることのため
- ③ 誰もが知っていてそれに対する感情を想起しやすいから
- ④ イヌは普通でいえば怖いとは言えない存在であるから
- ⑤ 事実的性質を各種持っているから

問十四 文章中の空欄Bには、四字熟語「喜□□楽」が入る。この中の空欄の二つの漢字を埋めよ。問十四は、解答用紙(その2)を使用。

二 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

歌川はもと越前の国^{みくに}三國の花街、荒町屋某がもとの遊女、泊瀬川^{はせがは}と云ふ。容色ありて、心ばへうるはしく、香、茶、花、手跡ともに志すといへども、最も性、俳諧を好めり。後、薙髪^{かみおろ}して歌川^{かせん}といふ。いまださかりなりし時、東都某の士夫、三國に來りてことに睦びけり。其時、泊瀬川いふ、「妾^{せま}、吾妻を一见せむと願ふこと久し、もし時をえて遊びなば、君が第^{*}にとどめ給はんや」といふに、こころよくうけひきぬ。其後、東國の人とだに聞けば、必ずこのことを約し置けり。一日、亭のあるじにむかひ、つばらにこのことを語りて、「¹「こかしこ、今はゆかりも出来ぬれば、百日のいとま給ひなん、もとより、その間の身のつぐのひも用意せり」といふに、主もつきなきことながら、常の心ばへにめでてゆるしぬ。」さて誰かれを送らせん」といふに、「いな、とくより心がまへせし」とて、菅の笠、竹の杖、その外、旅の調度などをみするに、家²こぞりて感じつつ、日をえらびて出立せしむ。是をききつぎて、人々、破子^{わりこ}などをもたらしつつ、あるは三里、あるは五里と送りぬ。それより道すがらしるべをたづね、そこばくの日数をかさねて、江戸につき、先づ、心あての第にたづね行き、「しかじか」といふ。人々あやしみながら「かく」といひつぐに、主人ききて「さることもありなん、旅のつかれをやすめて後、対面せばや」とてゆあみなどさせて、「まづいかなれば、かかるさまにてはきたりし」と問はるるに、俳諧修行のよしをかたり、道の記などをとり出て見するに、かつおどろき、かつよろこびて、内君に託して、うらなくとどめ給ふ。かくて日をふるままに、同列の人々をはじめ、某の国の守、これの北の方など聞きつぎ給うてめさるるに、あるは発句し、あるは茶を点じ、又琴、香、花などもさまよく手ずさびければ、日夜のわいだめなく、まつはし給ひしとぞ。ある時、主人の前に出て、「こたび君の御蔭にて、かたがた残りなくみめぐり、としごろの本意もとげ、かつ、おもひもかけぬ御あたりの御恵を蒙りぬ。国にて約せし日数も、今はみち^ウなんとすれば、いとま給ひなん」といふに、あるじ⁶そのことはすこしも心にかくべからず。別に人をもて国人にいはせぬ」とて、せちにとどめ給へば、又多くの月日を過して後、ふたたびこふに、せんかたなくてゆるし給ふ。こなたかなたよりも餞^{はなをけ}し給ふとて、こがね、衣服、何くれの調度など給はりける中に、名ある琴もありしと^オなん。されば馬五匹におほせて、国につかはさしめ給ふ。さて、国に帰りし

後、吾妻にて給はりし物ども、ことごとく亭のあるじに取らして、「おのれかくて三とせをへなば、一つの庵を結びて生涯をはごくみたまへ」といひて、又もとのあそびになりぬ。是をききつどひくる人7踵まひすをつぎしとかや。かくしつづつ約せし年月もみちぬれば、出村の町離はづれに草庵をむすび、世をやすすく過こせしが、安永六年丁酉七月、病にかかりて没せり。

目ざましに琴しらべけり春の雨

A さそふ水あらばあらばと蛸かな

爪紅のしづくに咲や秋海棠

おく底もしれぬ寒さや海の音

あそび成し時、文のはしに、

たたいても心のしれぬ西瓜哉

(『続近世畸人伝』による)

[注]

*第Ⅱ屋敷。

*つきなきことながらⅡ不都合なことながら。

*はごくみたまへⅡ原文通りだが、「はごくませたまへ」という意か。

問一 傍線部1「このことを約し置けり」とはどういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

12

- ① もし東国へ帰るのであれば、自分を妻にして欲しいと頼んだ。
- ② もし東国へ行くことがあれば、物見遊山に連れて行ってほしいと頼んだ。
- ③ もし自分が東国へ行くことがあれば、家に泊めて欲しいと頼んだ。
- ④ もし自分が東国へ行くことがあれば、俳諧の指導をして欲しいと頼んだ。
- ⑤ もし東国へ帰るのであれば、機会があれば、連絡をして欲しいと頼んだ。

問二 傍線部2「家こそりて感じつつ、日をえらびて出立せしむ」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

13

- ① 家の者は皆、その提案に賛成して、都合の良い日を選んで揃って出立することにした。
- ② 家の者は皆、その旅支度の調度品に感心しつつ、天気の良い日を選んで出立した。
- ③ 家の者は皆、その決意に心を動かされて、吉日を選んで出立させた。
- ④ 家の者は皆、その準備に感嘆して、日程を調整して供とともに出立させた。
- ⑤ 家の者は皆、その常の配慮を感じて、都合をつけて出立しようとした。

問三 傍線部3「うらなく」の意味は何か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

14

- ① 仕方なく
- ② すすりないて
- ③ 哀れんで
- ④ 疑ったりすることなく
- ⑤ こっそりと

問四 傍線部4「わいだめなく」の意味は何か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 15

- ① 約束なく ② 分別なく ③ 変更なく ④ 休憩なく ⑤ 区別なく

問五 傍線部5「本意もとげ」とはどういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 16

- ① 願いも叶え
② 怨みも晴らし
③ 出家し
④ 鬱散し
⑤ やり残したことも終え

問六 傍線部6「そのこと」とはどういうことか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 17

- ① 宿の主人と長逗留の間に打ち解けて、別れるのがつらいということ
② 宿の主人に、長逗留の間、思いがけない歓待を受けたこと
③ 宿の主人のおかげで、東国で行きたい場所を残りなく巡れたこと
④ 宿の主人とともに、俳諧修行の念願を果たしたこと
⑤ 宿の主人にすっかり世話になった上、亭の主と約束した期日が迫ったこと

問七 傍線部7「踵をつぎしとかや」とはどういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

18

- ① 直ぐに集まってきたとかいうことだ。
- ② もと来た道へ帰ったとかいうことだ。
- ③ あとからあとから訪れたとかいうことだ。
- ④ 足をとどめたとかいうことだ。
- ⑤ 絶交したとかいうことだ。

問八 Aの句の季語は「蛩」であるが、その季節は何か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

19

- ① 春
- ② 夏
- ③ 秋
- ④ 冬
- ⑤ 新年

問九 二重傍線部ア～オの「なん」のなかで一つだけ品詞の違うものがあるがどれか。次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。

解答欄番号は 20

- ① ア
- ② イ
- ③ ウ
- ④ エ
- ⑤ オ

問十 本文と内容が合致しないものは何か、次の①～⑤から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

21

- ① 亭の主は泊瀬川の願いを困ったことと思いつつも、いつもの心がけに免じて許した。
- ② 泊瀬川は、亭の主のために、留守中の自分の稼ぎに見合う代償を用意した。
- ③ 泊瀬川の出立を聞いた人々は、代わる代わる弁当を持って、途中まで送っていった。
- ④ 宿の主人の友人等に、泊瀬川は、俳諧、茶、琴、花を習った。
- ⑤ 宿の主人にもらった饞けの品々を、泊瀬川はすべて亭の主にあげた。



